



第37号
国立市谷保 3062
堀田 勲 576-0995
印刷: ジャノメサービス

日頃のご協力に感謝して

支部長 堀田 勲

今年はいラク戦争、北朝鮮問題など国際的な諸問題と同時に国内的には「りそな銀行」の経営破綻問題に見られるようにまだまだ危機的な経済状況にあると言わざるを得ません。

我が国立支部も先輩諸氏の築き上げた基盤の基に、予定された事業を遂行出来ますことは皆々様のご協力のおかげと深く感謝いたしております。

その先輩諸氏の中で支部発足以来当会の発展にご尽力いただきました山崎武先輩が昨年十一月にご逝去されましたことは誠に残念であります。会員一同感謝の気持ちを込めて、冥福をお祈りしたいと思います。

さて、我が支部の特色は会員相互の「親睦」を中心にした活動にあります。が、また、規模の小さな支部とはいえ、母校を支援し、母校の発展に寄与することも大きな柱のひとつであります。故村田亘支部長は大学創立百周年記念募金活動に際し大変、尽力され、多大な成果をあげられました。

今回の創立百二十五周年記念事業の募金活動に際しまして、も会員各位のなご一層のご協力をお願いする次第であります。それに關連して先の役員会におきまして山口副会長を中心とする募金委員会の発足を決定いたしました。多くの会員が金額の多少に関係なく、募金活動に参画できる方策等を検討し、実行に移すことになっております。会員のみならずのご支援、ご協力を心からお待ちしております。

さて、支部活動の現状をみますと、確かに年間予定されております行事はすべて実行されておりますが、それに参画し、遂行するのは一部の会員に限られております。

私たちの支部の目指すところは同じ地域に居住し、同じ大学を卒業した面々がその縁を

基にお互い楽しみ、少しは地域の皆さんのお役にたち、又、母校を想い、少しでも支援して行こうという非常にソフトなアットホームな目標を発足以来かかげてまいりました。そのひとつの表われとして会員名簿には敢えて職業、勤務先等を掲載せず、「みんな同じ会員で、職業は関係なし」としてまいりました。会員の皆さまの中には何か「もの足りなさ」を感じる方もいらつしやると思いますが私はそれでよいと思っております。

開かれたみんなの会として市民まつり、さくらまつり、大学公開講座、そして親睦行事におひとりでも多くの方々に気軽に参画していただければと思っております。

パソコンをお持ちの会員も多しと思えます。事務局としてもホームページの開設も検討したいと思っております。

学術講演会開催

日時 十月五日(日) 午後二時
会場 くにたち公民館
講師 理工学部教授 加賀野井秀一先生
演題 おまかせ社会の日本が危ない

国立市議会議員引退のご挨拶 風間 健

皆さまにはお変わりもなく、ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素からご支援いただきありがとうございます。三十二年間精いっぱい議員活動を続けてまいりましたが、今任期をもって私の人生観に基づいて引退することを決断いたしました。

想えばこの三十二年間、市議会議員としては決して長い期間ではありませんでしたが、一期目新人議員としては破格の議会運営委員会、委員長に就任し、二期目副議長、三期目議長就任と身に余る重責を全うさせていただきました。

特に議長職にあつては平成十二年暮れも押し迫った十二月二十八日の臨時議会大混乱で就任し、その後の事態收拾に苦慮したことが思い出されます。また、平成十二年三月定例会においては国立市政、始まつて以来の当初予算が否決される事態となり、行政当局と議会側との調整に奔走し、やっとの思いで予算可決にこぎつけたことも強烈な印象として心に残っております。私は初当選以来、一貫して教育問題と文化・スポーツの振興による市民の心と体の健康維持、増進の二つ

を議員としての活動の大きな柱としてきました。

教育問題では、文教都市・国立にふさわしい教育方針の確立、学校五日制移行による学力低下の懸念解消の対応策について正してまいりました。また、健康維持、増進については、この健康の面で、毎年十二月クリスマス・コンサートとして、芸小ホールにおいてクラシック音楽会・ファミリーコンサートを主宰し家族そろつてのこのころを癒し、やすらぎを求め、体の健康の面では国立市体育協会の常任理事として、毎年恒例になっている「くにたちウオーキング」等の主催事業を通して市民の皆様方の健康増進を図るとともにスポーツの普及・振興、スポーツしせつの拡充をつよく訴え、下水処理場上部に少年野球場やテニスコートの新設、既存の野球場やテニスコート、サッカーグラウンド等の整備、充実に努めてまいりました。今後は、一市民として、住んで良かったと思えるような、国立の街づくりに協力してまいります。引き続き変わらぬご厚誼をお願い申し上げます。引退のご挨拶とさせていただきます。

青木 健氏

国立市議会議員選挙に

おいてトップ当選

当会会員の青木健氏（57年文学部卒）は四月二十七日の国立市議会議員選挙におきまして見事トップ当選を果されました。

おめでとうございます。会員一同心よりお祝い申し上げます。今までの経験を活かして国立市民のために活躍されますようご期待申し上げます。私たちも出来る限り支援させていただきます。

遠藤正雄教授を迎え

学術講演会開催

「大気環境と生活環境とのかかわり」—環境ホルモンの

もたらすもの—

十一月十日（日）午後二時より、くにたち公民館において中央大学学術講演会が開催されました。講師にはダイオキシンの代表される環境ホルモンと生態との関連を研究されている理工学部教授遠藤正雄先生をおむかえして標記演題でご講演をいただきました。

環境ホルモンは体内の脂肪に溶けやすく分解されにくいという特徴をもっており、生態の健康に影響するばかりでなく、子孫の将来に影響する可能性があるとい

いうことをお聞きして、私たちは本気になって大気環境汚染等の問題に関心をもち、改善しなければならぬとの意を強くいたしました。会場には一般市民も多数聴講して関心の深さを感じました。

中央大学学術講演会

大気環境と生活環境とのかかわり
—環境ホルモンのもたらすもの—

講師 中央大学理工学部教授
遠藤 正雄

日時 平成 14 年 11 月 10 日（日）
午後 2 時～3 時 30 分

会場 くにたち公民館地蔵ホール
入場無料

主催 中央大学
後援 国立市教育委員会
中央大学学術会
中央大学学術会立支部

秋の日帰り旅行

『勝沼フルーツパーク』

平成十四年十一月二十五日（月）

小雨の中、日帰り旅行を実施しました。あいにくの雨模様にもかかわらず、十二名が谷保駅前に集まり四台の車に分乗して出発しました。中央高速道路を快適に走り抜け、勝沼ICからは風間氏から配布された詳細地図をナビにしてフルーツパークへすんなりと到着しました。雨は大粒になり寒さも感じてきました。目の前の果樹園もこの時期はなにも実っていません、トロピカル温室も概観を眺めて、ホテルの喫茶室へなだれ込でコーヒータムとなりました。

富士屋ホテルは甲府盆地を見

下ろす丘に建ち、南欧風の洒落た建て物です。晴れていれば、富士山・南アルプスが一望できる特別室で旅装を解き、ビールで乾杯する。飲み過ぎない前に四二一度温泉が涌く大浴場に移りました。お昼には贅沢な小鉢揃い弁当で満腹になりました。ここで地元の三科英訓氏白門会・39期が到着する。氏は山梨県庁を退職されたこと、残念だがいまは何も果実がなく、生産されたぶどうを使って作り出されたワインを差し入れてくれました。「錦城ワイン」がたちまち10本も空く、三科氏の説明がわかり易いのか皆さんは領きながら、ぐいぐい飲み干してました。もちろん幹事さんはお土産に各自2本ずつ手配されてました。

再び入浴してくる人、歓談が続く人、ちよつと横になる人、さまざまである。外の雨は小雨になり雄大な山々が薄く見えてきた。楽しい食事会をお開きにして、フルーツセンター（お土産や）に寄る。野菜や味噌・お孫さんへのおもちゃ：皆さん思い思いに買い求めています。また雨が無情にも降り出してきましたので、恵林寺見学をカットして帰路につきました。楽しい一日でした。

石井 孝 記

フルーツパーク富士屋ホテル



びあ倶楽部で納涼会開催

七月二十日（海の日）恒例の納涼会を風間俊範さんが関係する多摩市にあります地ビールで有名な「びあ倶楽部」で納涼会を開

催しました。当日は陽射しも強くモノレールの大塚・帝京大学駅からの道すがら、のども渴きビールを飲むには絶好のコンデイションでした。色々の種類のビールを次々に楽しみ、飲みすぎた人もいたようですが、風間さんには特別にサービスをしていただき、ありがとうございます。

山崎 武 先輩が ご逝去されました



当会の発足以来、会のリーダーとしてご指導いただきました山崎武先輩が昨年十一月二十二日ご逝去されました。（享年八三才）氏は警視庁に勤務され、バス旅行の際は車中で、奥多摩湖で発生しました殺人事件の顛末についてよくお話になり、同乗者もその話に夢中になってしまったことも懐かしく思い出されます。またカラオケも大好きで、いつもトップバッターを引き受けてくださいました。写真は新年会で得意の演歌を熱唱されている時のお写真です。ご冥福をお祈りいたします。

四国遍路旅日記

一宮 巍



〈遍路の動機〉

私は殆ど東京育ちであります。両親は愛媛県今治市の出身です。先祖のお墓が五十四番札所の「延命寺」にあります。

そもそも私と「延命寺」との関わりは、昭和十六年に父親が赤紙一枚で兵隊に召集された時から始まります。当時国民学校一年生であった私は、父の出征の後私等三人の妹、弟を抱え、四人目を身ごもっていた母は、郷里である今治へ昭和十七年初めに引き上げる事になりました。今治では二度の空襲を受け、昭和二十年八月（広島に原爆が投下される前夜）には焼夷弾攻撃に遭い、家が丸焼けになりました。

それで今治には、昭和二十二年父が復員するまで丸々六年間過ごしました。多感な少年時代を過ごすことになり、第二の故郷です。その時に卒業したのが愛媛県越智郡「乃万国民学校」であり、「延命寺」であった訳です。

当時もお遍路さんが回って来て、角づけに一握りの米をあげたり、軒下を一夜の宿に貸すなど、見聞きしていました。学生時代には多少キリスト教にも関心がありました。クリスマスのミサに参加したり、聖書研究会にも参加したこともありましたが、結局は「お大師様」に回帰することになりました。

以来私は弘法大師大好き人間にな

りました。「お大師様」が同じ四国の生まれと言ったこと、空海が没したのが八三五年、私が生まれたのが一九三五年、丁度一〇〇年の前のことです。これも何かの縁だと思っています。

長じて二度の大病をし、昭和五八年四人才の時の脳梗塞で右の手が動かなくなり、右半身の手足がほんの瞬間ではありましたが、マヒした経験もあります。それで脳の血管のバイパス手術を受けたことになりました。平成四年五七歳の時には直腸癌手術を受けました。同年、長年勤めた会社を退職する事にもなりました。

そこで、これまで元気に生かされてきたこと、無事に退職出来たことを、お大師さんに報告をし、感謝の気持ちを込めて四国を回ろうと言う事になり、平成四年八月に妻と一緒に四国遍路を回りました。その時はバスで十二日間掛けて八八カ所を回りました。

その年の暮れの十一月、何の因果か長男の死目に直面し、複雑な気持ちで平成四年が暮れたことを覚えております。

その後平成八年には父が八六才で亡くなり、平成十四年は四国遍路を回ってから十年目の節目にも当たり、十年前に亡くなった息子や父の供養の意味もあって、四国遍路を回ろうと決めたのでした。

〈遍路の準備〉

平成十三年に岩波新書で出版された辰濃和夫著「四国遍路」を読みました。それに刺激されて、

一度歩いて回ろうかなと言う気持ちがあふつと沸いてきました。しかしそれだけの体力があるだろうか心配でした。それとは別に、ひよんな話から白馬登山に挑戦することになり、旅行社の登山ツアーに参加しました。なにしろ学生時代に初めてスキーを履いたのが、昭和二十九年白馬山麓であり、青春時代の思い出の地でもある「白馬岳」に一度登りたかったのです。

八月、「大雪溪」に立ち、高山植物の咲き乱れる「お花畑」を目にすることが出来たことは大感激でした。その結果として、自分にもまだこんな三〇〇〇メートル級の高い山にも登ることが出来るのだ、体力があるんだと言う自身が出て来ました。これで四国を歩いて回れるな、と思いました。それに加えて、秋から「般若心経」の写経を始めました。とにかく納めるのは一ヶ寺で、「本堂と大師堂」の二ヶ所、全部で一七六枚の写経が必要です。それを書くのに平成十四年八月まで約一年掛かりました。これで準備完了です。

〈出発進行〉

多くの人が四国八十八ヶ所を順拝するのに、一番の寺から回るものと思っておられるでしょうが、これは何処から回っても構いません。また、何処から逆に回っても良いのです。それは、平成四年にバスで回ったときに第五十二番大山寺からスタートし、結願が五十一番石手寺であったことを経験しています。

そこで今回は、故郷の今治の五十四番延命寺を最終の結願寺としたいとの思いもあって、五十五番南光坊からスタートすることにしました。

平成十四年八月十七日、出発の朝です。お盆明けの朝は快晴です。国立駅四時四七分発の一番電車、東京駅六時十三分発広島行きの新幹線に乗りました。福山で下車し、福山発十時三〇分の「しまなみ海道」経由今治行きバスに乗りました。「しまなみ海道」は「存じの通り、尾道〜今治間の島々を結ぶ連絡橋道路です。本四架橋の三番目の橋で、平成十一年五月に開通しました。途中には向島・因島・生口島・大三島・弓削島・大島等を美しい橋で結んでいます。生口島には平山郁夫記念美術館があり、大三島の大山祇神社には源平の時代の平家・源氏の武将の鎧・兜・甲冑が沢山奉納されている神社としても有名です。

今治駅には十二時に着きました。いよいよ「歩き遍路」のスタートです。先ず、何はともあれ、先祖の墓所である「延命寺」へお参りし墓参を済ませ、道中の無事と安全を祈願しました。そこで及鶴や遍路傘等の遍路グッズを買い揃えました。（金剛杖・鈴・ズタ袋・輪袈裟等は前回の物を使用しました。）

『第一日目 八月十七日は、五十五番南光坊・五十六番泰山寺』
その昔、住んでいた竹屋町の市営住宅を過ぎ、別宮にある五十五番南光坊へ着いたのは午後四時

過ぎになっていました。

お寺に着くと先ず本堂に行き、お灯明をともし、お線香をあげ、納め札（住所・氏名を記入し、各お寺の本堂・大師堂に納める）と東京から持ってきた写経を所定の箱に納め、それから「般若心経」を誦唱し、御本尊の称号唱え（五十五番南光坊の本尊は大通智勝仏であるが、各寺によって本尊は違ふ）、続いて光明真言と回向文を唱える。更に息子や父の戒名を唱えて供養し、併せて「先祖様、ならびに一切衆生の霊を供養する。次に大師堂にお参りし、ローソク・線香・納め札・写経を納め、「般若理趣経」と「般若心経」を誦唱し、お大師さんの称号「南無大師遍照金剛」と回向文を唱える。これが私流のお参りの作法です。これで一ヶ寺約三〇〜四〇分掛かります。

一通りのお参りを済ませてから納経所へ行き、「朱印」をもらうわけです。前回回った時の納経帳を持って行ったので、二度目は印だけをもらうようになる（文字は一切書かない）。納経所でいろいろ話をしているうちに、今年の九月から東京の写真美術館（恵比寿）で開かれる「遍路と空海展」の入場券を戴くことになった。次の札所の五十六番泰山寺までは約三キロ、着いたのは午後五時を過ぎてしまった。先はまだ遠い。

（次回に続く）

平成14年度 国立白門会決算書

自平成14年4月1日 至平成15年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	決算	予算	科目	決算	予算
年会費	240,000	300,000	印刷費	63,000	200,000
総会会費	145,000	150,000	総会費	184,141	200,000
寄付、祝金	93,000	0	交際費	129,772	150,000
特別収入	210,401	30,000	親睦行事費	67,533	100,000
雑収入	13	0	通信費	67,860	70,000
前年度繰越金	511,396	511,396	会議費	19,100	20,000
			事務用品費	26,101	40,000
			雑費	210	30,000
			予備費	0	181,396
			次年度繰越金	642,093	
合計	1,199,810	991,396	合計	1,199,810	991,396

平成15年5月25日

会計 高橋雅幸 印
 会計監事 山川昌一 印

平成15年度 国立白門会予算案

自平成15年4月1日 至平成16年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	摘要	金額	科目	摘要	金額
年会費	3000円×100名	300,000	印刷費	白門会ニュース	100,000
総会会費	5000円×30名	150,000	総会費		200,000
特別収入	さくら祭、市民祭	30,000	交際費	近隣支部総会祝金他	150,000
前年度繰越金		642,093	親睦行事費	納涼会、新年会他	130,000
			通信費	会員連絡他	100,000
			会議費	役員会他	30,000
			事務用品費		50,000
			雑費		30,000
			予備費		332,093
合計		1,122,093	合計		1,122,093

平成14年度活動報告

厚生部

- * 7/20(土) 納涼会(びあ倶楽部)
- * 10/ 6(日) ゴルフコンペ(花咲カントリー)
- * 10/14(月) くにとちウオーキング参加
- * 11/25(月) 旅行(フルーツパーク富士屋ホテル)
- * 1/26(日) 新年会(市役所地下ハーベスト)

事業部

- * 4/7(日) 「さくらフェスティバル」参加
- * 6/9(日) 定時総会
- * 11/4(月) 「くにとち市民まつり」参加
- * 11/10(日) 中央大学学術講演会(公民館)

組織部

- * 会員増強
- * 国立白門会ニュース36号発行

平成15年度活動計画

厚生部

- * 7/21(月) 納涼会
- * 10/13(月) くにとちウオーキング参加
- * 10/19(日)~20(月) 旅行
- * 11/9(日) ゴルフコンペ
- * 1/25(日) 新年会

事業部

- * 4/6(日) 「さくらフェスティバル」参加
- * 4/19(土) 中大多摩校舎観桜会
- * 6/15(日) 定時総会 公民館
- * 10/5(日) 中央大学学術講演会(公民館)
- * 11/3(月) 「くにとち市民まつり」参加

組織部

- * 会員増強
- * 国立白門会ニュース37号発行